

令和 8 年 8 月 6 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

静岡県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
附属浜松小学校（外 校）	静岡大学教育学部	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
附属浜松小学校	https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamasho/%e6%95%99%e8%82%b2%e7%a0%94%e7%a9%b6/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
附属浜松小学校		

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（1）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

（2）実施状況に関する特記事項

※（1）で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

（3）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

＜特記事項＞

4月に在校生保護者向けに、2月に来年度入学児童保護者向けに学校説明会を実施し、本校の教育活動、教育課程（特別の教育課程含む）に関する説明を実施し、小学校と中学校が一体となり、「エージェンシーベースカリキュラム」という独自の教育課程を編成していること、変化の激しい時代において、周囲の「ひと・もの・こと」との関係をより良く作り替え、自らよりよい未来を切り拓いていく「変革を起こす力」を9年間かけて育んでいくことを説明している。

3. 実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

特別の教育課程は、研究目標「よりよい未来を創造する子どもの育成」を具現化するために機能している。

「エージェンシーベースカリキュラム」は能力を競い合う「コンピテンシーベース」から、周囲との関係性をよりよく作り替える「エージェンシーベース」へ重点を転換することで、子どもが自ら社会に変革を起こす力を育めるように設計されている。

独自の「1+3領域」と「哲学的な学び」を組み合わせることで、教科の知識習得にとどまらず、その学びが「自己の在り方・生き方」にどう関わるかを問い直す仕組みになっている。

また、小中学校が一体となって同じカリキュラム構造（入れ子構造）を用いることで、長期的な視野で「よりよい未来を創造する」意志を育むことが可能となっている。

結論として、本校の特別の教育課程は、子ども一人ひとりが自分自身でよいと考える『自己の在り方・生き方』を歩むという目的を達成するための、土台であり手段であると言える。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校教育法の目的を形骸化させないために、本校独自の「哲学的な学び」と「エージェンシーベースカリキュラム」がある。

学校評価（11月実施、対象：児童、保護者、教員）において、当校の教育活動が子どもの主体性を大切に実践・実施されている点に、評価を得られている。

また教育研究発表会では、県内外から教育関係者を対象に、本校の研究の紹介と授業公開を実施しており、当校のめざす教育理念に対して、参加者から多くの賛同を得た。

4. 課題の改善のための取組の方向性

教育課程全体で小中一貫エージェンシーベースカリキュラムを実施していく中で、子どもが「自己の在り方・生き方」を拡げ・深めているのはどのような場面であるかを見取り、より効果的な教育活動へと繋げていけるよう、カリキュラムの改善を図っていく。